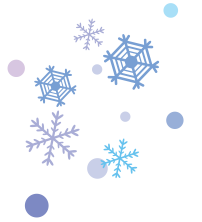


津軽半島通信

第7号
季刊発行



津軽半島の食・祭りを集結させた

津軽半島大集合2013

2013年11月30日(土曜日)、津軽半島大集合2013は開催されました。

津軽半島大集合とは、津軽半島の2市7町の食や祭りを集結させた、津軽半島観光アテンド推進協議会主催のイベントです。津軽半島全域を巡るには交通機関を使用しても難しい問題があります。そこで、簡単にひとつの会場ですべてを食べることができ、祭りまで体感できたらという願望からできたイベントでした。会場は、五所川原市にある立佞武多広場、立佞武多の館の隣にあります。

11月30日ということもあり、気温も低く寒い中での屋外イベントだったにも関わらず沢山の方に足を運んでいただき、イベントを一緒に盛り上げてくださいました。

当日は29店舗が出店し、寒い時期には嬉しい「鍋をはじめ津軽に伝わる「郷土料理」や、津軽半島の名物である「菓子」もあり、県外の方のみならず地元の方でもさへも珍しいと感じるほどの食が会場内に陳列され、買い求める皆さんの目は本当に輝いていました。同じ津軽にいてこんなに知らない食があったらどうと、感じたほどでした。中でも津軽の郷土料理の一つでもある、



「おいなり」と「赤飯」は大人気。この料理は赤いご飯であり、尚且つ甘いものという津軽では当たり前前の味が青森県外に行くと思議がられるものです。だからこそ、味わっていただけて欲しい一品でもあります。



また、祭り部門でもステージは常に賑わっていました。地元の保育園児によるお遊戯から始まり、津軽半島の各市町村にいる「ゆるキャラ」が勢揃いしたイベント。

には金木・喜瀬地区の「奴踊り」。これは腰を低くし踊る様子が実に難しく、正に伝統芸能。そして、鶴田町の「ツル多はげます会」の方々のハゲ頭を生かした綱引き大会や名月あてワイズは、会場内を笑いで包んでくれました。沢山の方の来場で盛り上げた今回のイベントをまた来年へ繋げていけるよう、また新たな発見と伝統を大事にし、津軽半島を盛り上げていきます。



うわさのあの



花を愛する会
小関光雄さん



キバナコスモス

沿線彩る

津軽鉄道沿線や五農校前停留場や毘沙門停留場周辺、国道339号歩道にキバナコスモスを植え八年度になりました。地域ボランティアたちと共に種から育てたキバナコスモスの苗は、大事に管理され植え付けを行います。七月末からオレンジ色のコスモスが咲き始め、沿線を鮮やかに埋め尽くします。津軽鉄道の車窓から見たその光景は、きつと皆様の心を和ませ笑顔にしてくれるものと思ひ、環境美化活動にも精を出し頑張つて手入れをしています。一度散策して見てみてください。その他、この辺では珍しい花も植えてもきれいに咲き、なお一層花いっぱい街になります。

青森県警察サギかも広報活動員に選ばれました

十一月十五日に私達津軽半島観光アテンド六名が「青森県警察サギかも広報活動員」に選ばれました。青森県内における特殊詐欺認知状況は認知件数五十六件、被害額合計は約一億四千二百円と、被害者の約七割が六十五歳以上の高齢者で、女性が多い傾向にあります(本年十月末時点)。警察でも特殊詐欺被害防止の対策を各種推進していますが、一般の方からは近寄りたくない話をよく聞くそうです。また警察視点で物事を見てしまっている傾向がありますので、警察以外の視点で普段乗客の方とお話をして私達が選ばれたとのことです。

私達は警察の方と共に来年三月までの各月十五日前後に、警察の方と共に津軽鉄道の列車に乗車し、広報活動をしていきます。

「サギかも」と思つたら、また、何かトラブルが発生した場合も近くの警察に連絡くださいね。



冬の風物詩 ストープ列車

平成二十五年度のストープ列車のシーズンがいよいよやってきました。現在、ストープ列車として運行している旧型客車二両は、いずれも昭和二十年代に製造されたもので、旧国鉄時代に活躍した後津軽鉄道へやってきて以来、今でも尚現役で頑張っています。その旧型客車は津軽鉄道にとって、四代目のストープ列車。

津軽鉄道へ嫁入りしてからちょうど三十年を迎えます。今シーズンのストープ列車は津軽鉄道にとって特別なものになりそうです。

乗客たちは炙つたスルメをかじつたり、ストープ弁当を頬張つたりと思ひ思いの時間を過ごしていました。その光景はまるで昭和へタイムスリップし、どこか遠くへ旅に出ているようです。

ストープ車は不思議な魅力があります。知らず知らずのうちに隣の人たちと友達になつてしまふ。そして、アテンドたちはいつも以上に訛り乗客たちを非日常の世界へと連れ出します。

ストープ列車でお会いしましょう。

